

769人も市民が協力。高まる自然への関心

調査は昨年七月と八月の二カ月間にわたり、十一種類の動植物について行いました。動物では、ツバメ、アブラコウモリ、ヤモリ、カナヘビ、トノサマガエル、アマガエル、ジグモ、ツクツクボウシ、ニイゼミの九種、植物では、ヤブガラシ、ヘクソカスラの二種です。

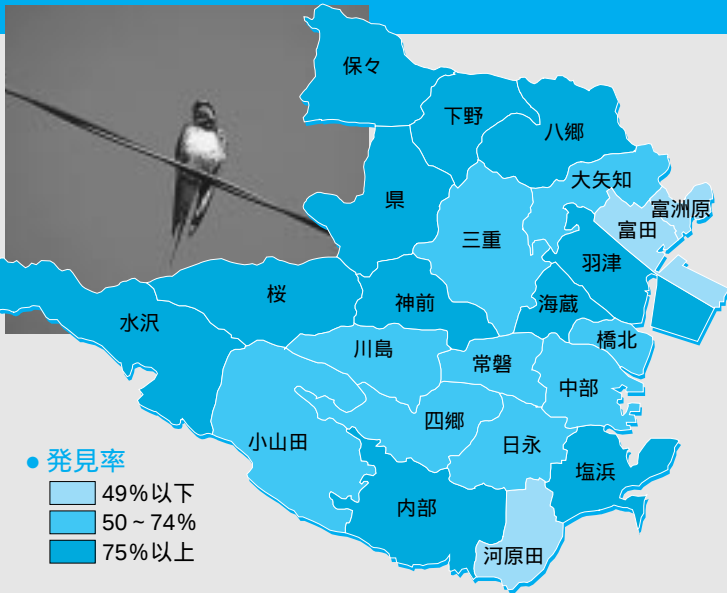
調査には子どもから大人まで七百六十九人も市民のみなさんに協力していただきました。この調査への参加で、自分たちの生活する地域の身近な自然への関心が一層高まり、子どもたちにとっては、実際に調べることで、さまざまな動植物の生態について学ぶことができました。

この調査結果では、十一種の生き物のすべてが全区で発見されており、分布の具体的状況を把握することができました。ご参加をいただきました市民のみなさん、ありがとうございました。今年度も、新たな動植物を対象に調査を行いますので、ぜひご参加ください。募集の内容は左の募集記事をご覧ください。

市街地に居残る生きものたち

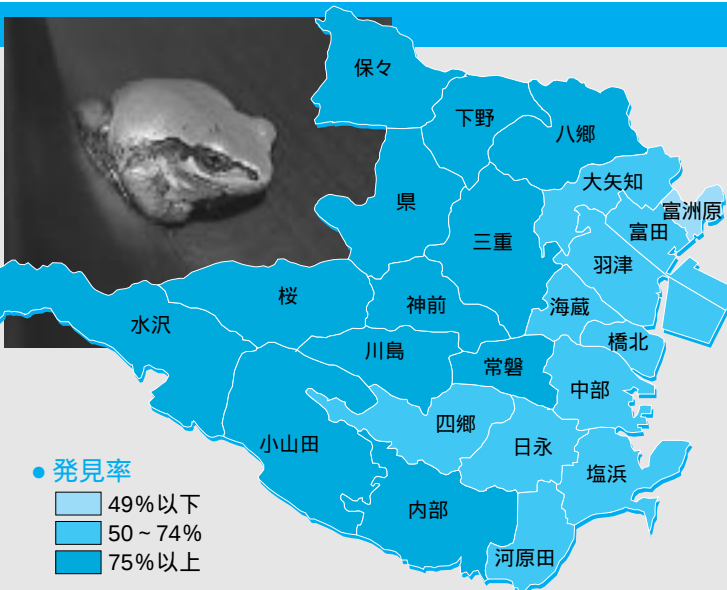
【ツバメ】

えさや巣材の泥、巣立ち後のねぐら環境や天敵などの諸状況が悪化しているものの、まだ市街地にも郊外にも多く住んでいます。発見した人も多く、見られる時間や期間も長い、親しみのある野鳥です。



【アマガエル】

水田や水辺から離れた街中でも多く見かけることができます。発見率が一番高く、七六%にものぼりました。庭木が多く、えさの昆虫もいて、天敵が少ないため、生きていけるでしょう。



身近な自然調査に
あなたも応募して
ください

あなたの
家の近くの
自然調査に
ご協力ください。

■対象

市民のみなさん

■調査内容

第二回は十種類の動植物について調査します

■調査期間

七月一日～八月三十一日

■申し込み先

「身近な自然調査」推進委員会
〒510-0093

四日市市本町九番八号

本町ブラザ四階

四日市市環境学習センター内

FAX 54-8431

はがきかファクスで、「身近な自然調査に応募します」と記入の上、郵便番号・住所・名前・電話番号を書いて申し込んでください。